

4月13日(月曜日)「ダビデ(5)友情で助かる」

【新改訳 2017】

Ⅰ サムエル記19・1－24

「サウルは、ダビデを殺すことも、息子ヨナタンや家来の全部に告げた。しかし、サウルの子ヨナタンはダビデを非常に愛していた。それでヨナタンはダビデに告げていった。『……あしたの朝は、注意して……身を隠していてください。』」(1,2節)

サウル王の息子ヨナタンと、王位に関してはライバルであろうダビデとの間の友情は不思議なかたちで芽生え、固く、美しいものになりました(18・1－4も参照)。

サウル王はダビデの力と人気を気にし、恐れ、疑うようになり、繰り返しダビデを殺そうとしました。しかし、そのたびにヨナタンはダビデに連絡をつけ、逃げて隠れるように勧め、ダビデを助けたのでした。同時に、彼は王に対してダビデの弁護もしました(全体を読んでみてください)。

ふつう、権力の座に近い者たちは、ライバルを消そうとしますが、ヨナタンとダビデは違いました。説明を超えたこの友情は、

背後に神の摂理の働きがある「聖なる友情」だったのでしょ。う。

～祈り～

主よ。どんなに勇敢な信仰者も、自分だけでは生きることができず、他の誰かに助けられていることを教えられます。そして、そこにあなたの摂理があることを覚えて感謝します。

**【学びのために】**

ダビデとヨナタンの友情物語は、聖書でも多くのスペースを用いて記録されています。1 サムエル18章から数章にわたっています。真の友情について教えられています。ヨナタンはサウル王の長子。軍人としても有能でした。箴言:17・17参照。